

國學院大學学術情報リポジトリ

デジタル・ミュージアム研究会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000546

デジタル・ミュージアム研究会

日本文化研究所では、デジタル・ミュージアムのより良い運用のために、不定期に研究会を開催してきている。2018年度は、2019年2月27日（水曜日）の午後に研究会を開催し、講師に金城学院大学の桐原健真氏をお招きして、「書誌目録と全文テキスト：二つのデータベースの運用と展望」という題目でご講演を頂き、また参加者全員で議論を行った。

桐原健真氏は、近代日本倫理思想史、幕末維新期思想研究などをご専門とし、下記の二つのデータベースの構築・公開に関わってこられた：

- ・ 日本思想史文献データベース検索
<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/dojih/>
- ・ 日本儒林叢書全文データベース
<http://www2.sal.tohoku.ac.jp/jurin/>

「日本思想史文献データベース検索」は、日本思想史に関連する書籍・論文の書誌情報を収録したデータベースである。『日本思想史研究』に1966年度分から掲載されてきた「日本思想史学関係研究文献要目」を下敷きとし、web上で公開することによって、日本国内だけでなく海外からも活用してもらうことを企図したものであった。科学研究費補助金の研究成果公開促進費の交付を受けて2006年から公開されており、現在2013年度のデータまで公開されているが、残念ながら現在は積極的な更新は行われていないとのことである。

「日本儒林叢書全文データベース」は、関儀一郎編『日本儒林叢書』（全4期：1927～1938）を全文テキストデータベース化したものである。全14巻1万4千頁について、頁毎にテキスト化し、PDFと紐付けする形で公

開している。科学研究費補助金の成果公開データベース助成事業として採択されて2011年度から公開されているが、残念ながらこちらについても現在は積極的な更新は行われていないとのことである。

両データベースについて、多言語化対応やデータセットなどの技術的な事項に加えて、予算規模、実施体制、ワークフローといった実務的な事項についても紹介がなされた。その上で両データベースの現状について、大学院生の献身的な協力を必要とするようなデータベースの構築体制は、大学院のあり方が変化したこともあって、持続可能性に問題を抱えていること、他方で民間に委託するためには予算面での問題があること等が指摘された。

その後参加者全員で、日本国外への発信に関する事など、人文系オンライン・データベースの今後のあり方について議論を行った。参考：桐原健真「日本思想史系データベースの利用とその現状」『日本歴史』2010年1月号。

（星野靖二）



講師紹介の様子